

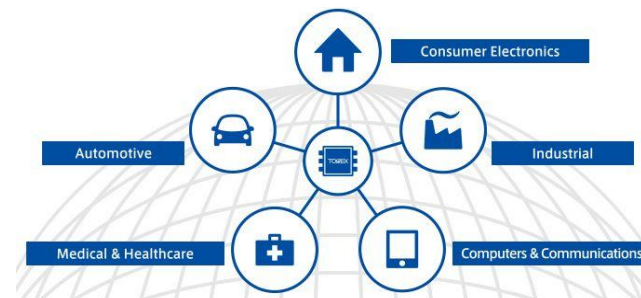
2027年3月期 第1四半期 決算説明資料

2026年 8月12日

トレックス・セミコンダクター株式会社

世界は「アナログ」でできている

あらゆるフィールドで活躍するトレックスの電源IC



1

2027年3月期 第1四半期業績

2

2027年3月期 業績予想

3

株主還元

4

トピックス

Appendix

2027年3月期 第1四半期業績

▶ **トレックスは、北米以外の全ての地域で売上が増加、
為替の影響もあり、増収増益**

▶ **フェニテックは、欧州以外の全ての地域で売上が増加、
為替の影響もあり、増収増益**

▶ **為替が想定より円安に進んだことなどから、通期の業績
予想を上方修正**

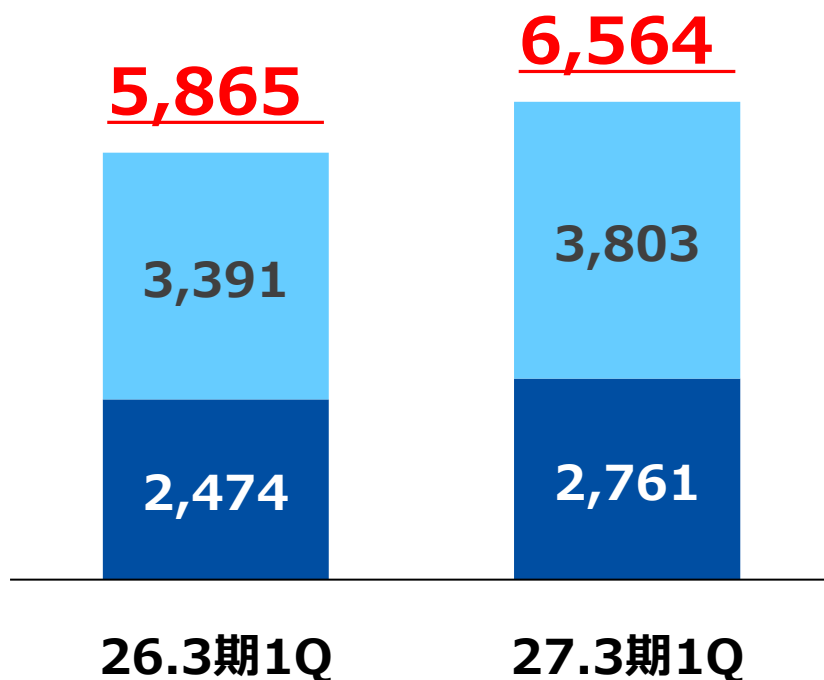
(単位：百万円)

	26.3期 1Q実績	27.3期 1Q実績	対前年同期比 増減率
売上高	5,865	6,564	11.9%
営業利益	165	885	436.3%
営業利益率	2.8%	13.5%	10.7pt
経常利益	64	1,113	-
親会社株主に 帰属する四半期純利益	35	911	-
EPS（円）	3.38	86.06	-
海外売上高比率（*1）	70.6%	74.0%	3.4pt
平均為替レート（1\$=）	¥145.1	¥160.5	-
減価償却費	486	406	▲16.5%
設備投資	341	422	23.8%

（*1）海外売上高比率：外貨建て売上比率

(単位：百万円)

■ : トレックス
■ : フェニテック寄与分



➤ トレックス

- 北米以外の全ての地域で増加
- ウェアラブル機器以外の全ての分野で回復し、増収

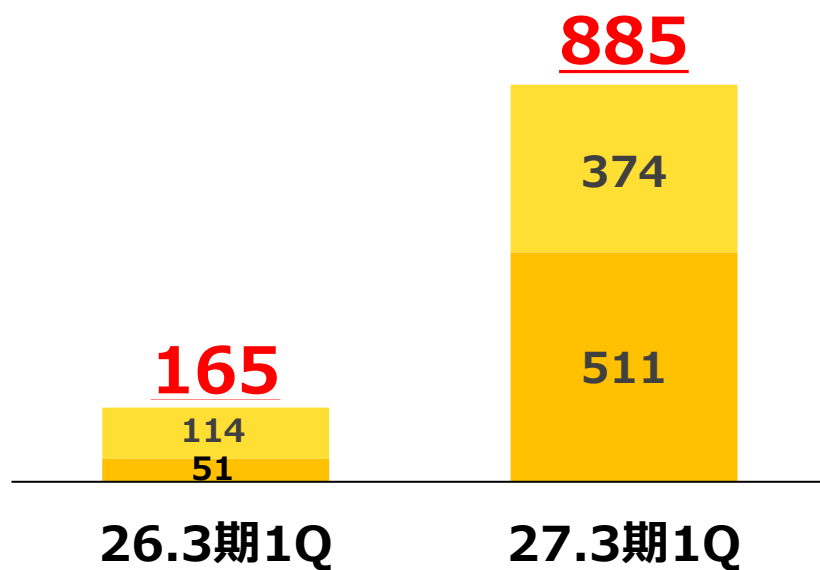
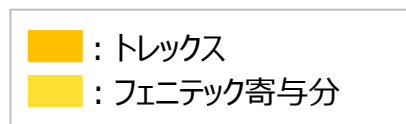
➤ フェニテック

- 欧州以外の全ての地域で増加
- 医療機器以外の全ての分野で回復し、増収

(単位：百万円)

	26.3期1Q 実績	27.3期1Q 実績	対前年同期比増減率
売上高	5,865	6,564	11.9%

(単位：百万円)



➤ トレックス

- 売上の増加に加え、棚卸在庫の評価方法見直しによる一時的な利益の改善により増益

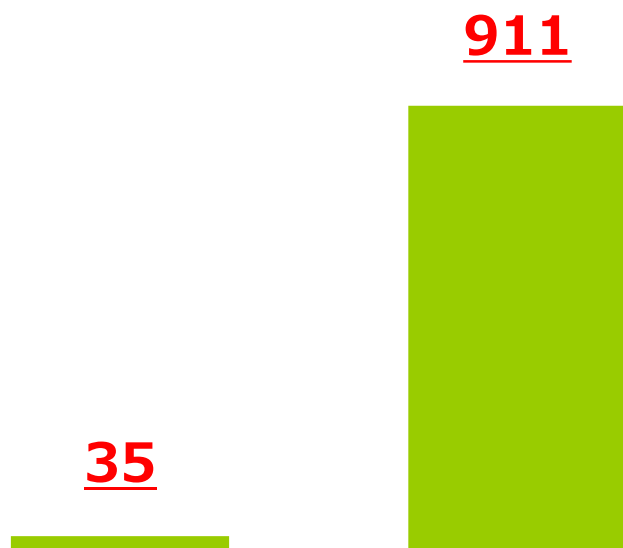
➤ フェニテック

- 売上の増加により増益

(単位：百万円)

	26.3期 1Q実績	27.3期 1Q実績	対前年同期比増減率
営業利益	165	885	436.3%

(単位：百万円)



営業利益の増加と、営業外収益
における受取配当金の発生などにより、増益

(単位：百万円)

	26.3期 1Q実績	27.3期 1Q実績	対前年同期比増減率
四半期純利益	35	911	-

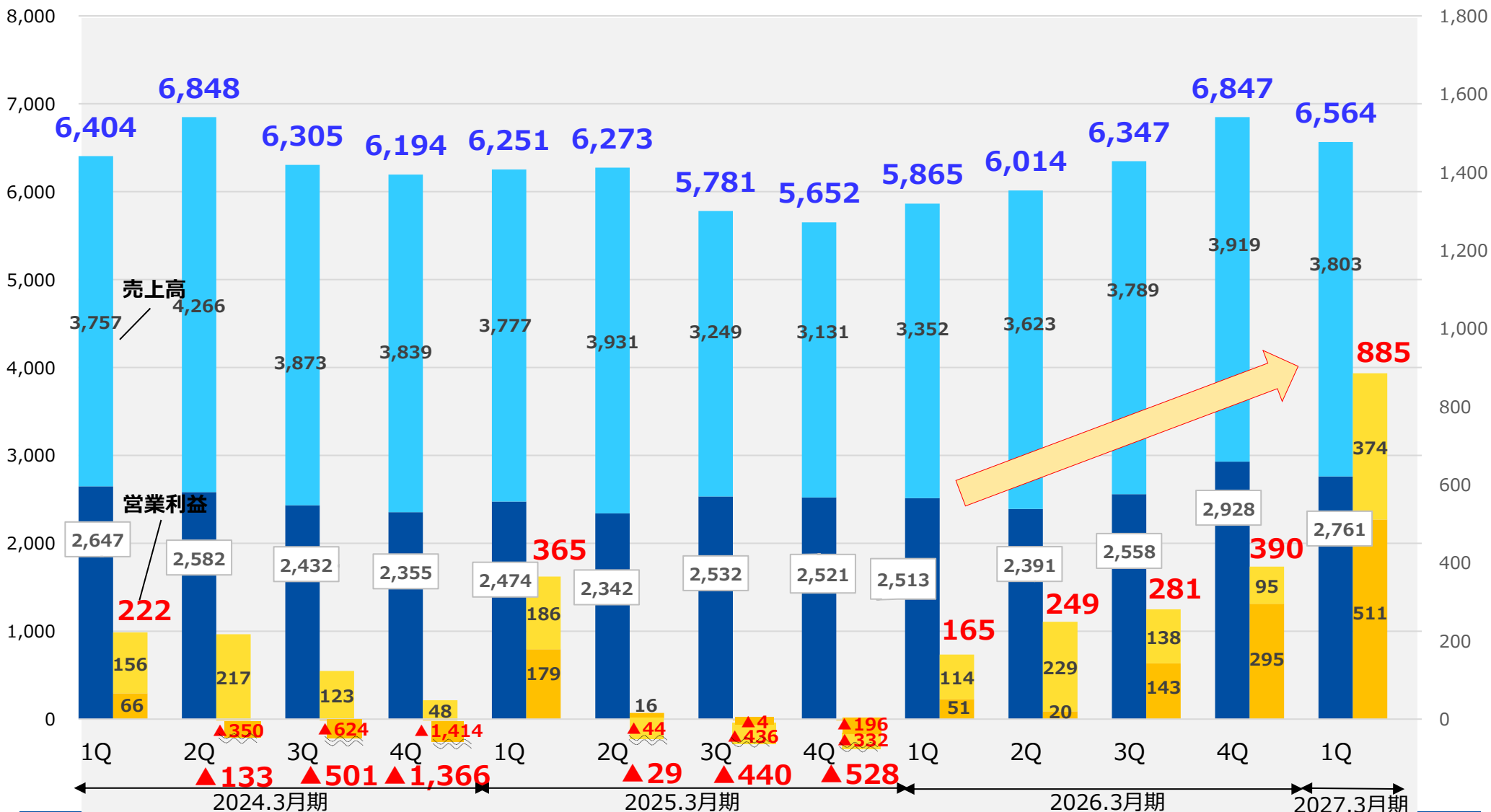
売上高・営業利益の四半期推移

(左軸：売上高) トレックス : ■■■■

(単位：百万円) フェニテック : ■■■■

(右軸：営業利益)

(単位：百万円)



(単位：百万円)

	26年3月期末	27年3月期 1Q末	対前期末増減
資産	35,801	35,944	143
負債	17,040	16,384	▲656
純資産	18,761	19,560	799

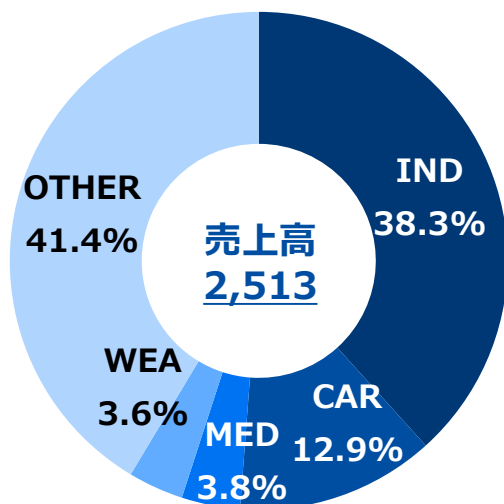
＜参考＞ キャッシュ・フロー関連指標の推移

	26年3月期	27年3月期 1Q末	対前期末増減
有利子負債	13,037	12,276	▲761
自己資本比率	52.4%	54.4%	2.0pt
D/Eレシオ	0.70	0.63	▲0.07pt

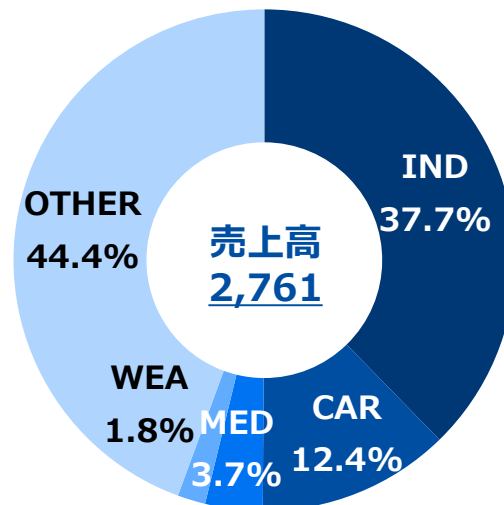
トレックス／フェニテック 各単体

2027年3月期 第1四半期業績 ～アプリケーション別売上高（トレックス）：参考値

TOIREX



26.3期 1Q実績



27.3期 1Q実績

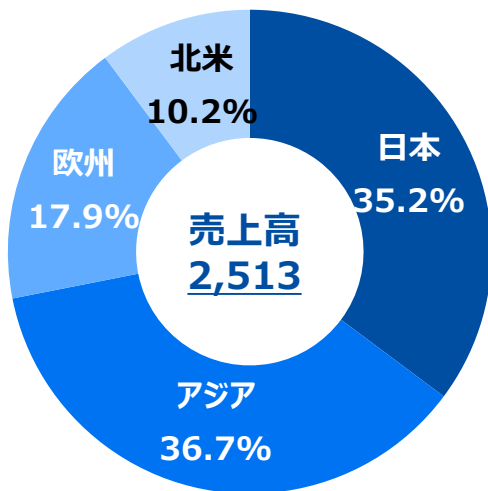
(単位：百万円)

アプリケーション		26.3期 1Q		27.3期 1Q		対前年同期比 増減率
		売上高	構成比	売上高	構成比	
IND	産業機器	963	38.3%	1,041	37.7%	8.1%
CAR	車載機器	325	12.9%	343	12.4%	5.5%
MED	医療機器	95	3.8%	102	3.7%	7.4%
WEA	ウェアラブル機器	90	3.6%	50	1.8%	▲44.4%
OTHER	その他機器	1,040	41.4%	1,225	44.4%	17.8%

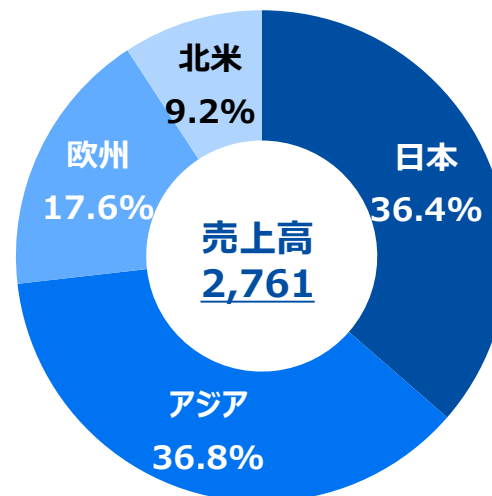
※注：アプリケーションの分類は変更することがあります。

2027年3月期 第1四半期業績 ～地域別売上高（トレックス）

TOIREX



26.3期 1Q実績



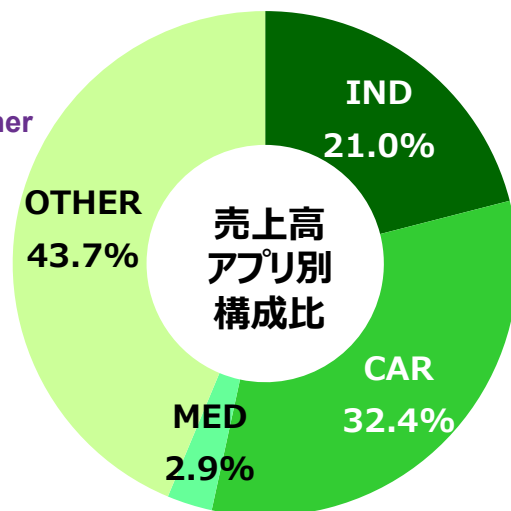
27.3期 1Q実績

(単位：百万円)

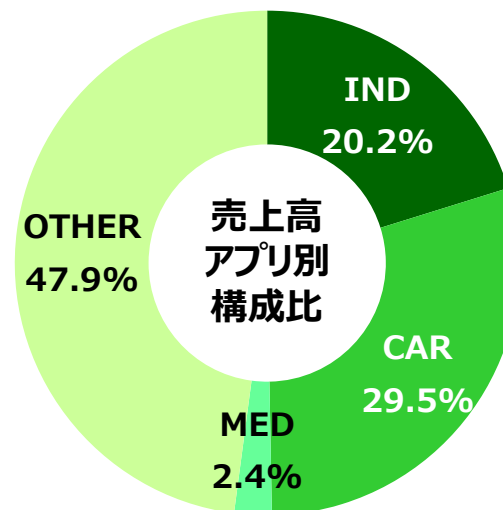
地域（D-in）	26.3期 1Q		27.3期 1Q		対前年同期比 増減率
	D-in 売上高	構成比	D-in 売上高	構成比	
日本	885	35.2%	1,006	36.4%	13.7%
アジア	921	36.7%	1,015	36.8%	10.2%
欧州	451	17.9%	487	17.6%	8.0%
北米	256	10.2%	253	9.2%	▲1.2%
平均為替レート（1\$=）	145.1円		160.5円		

D-in 売上高：デザイン・イン・ベース売上高。当社の製品を搭載した製品が企画・設計され、実質的に受注を獲得した地域をベースとした売上高

2027年3月期 第1四半期業績 ～アプリケーション別売上高（フェニテック）：参考値



26.3期 1Q実績



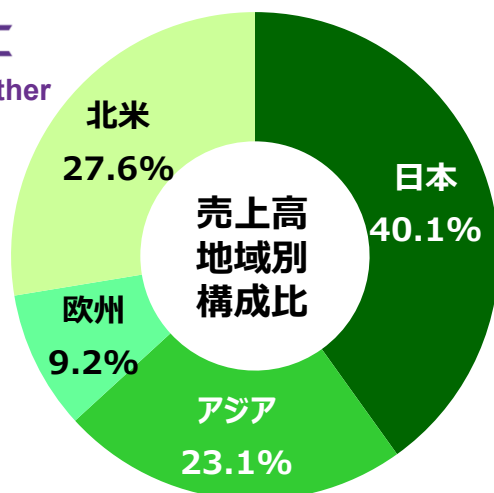
27.3期 1Q実績

(単位：百万円)

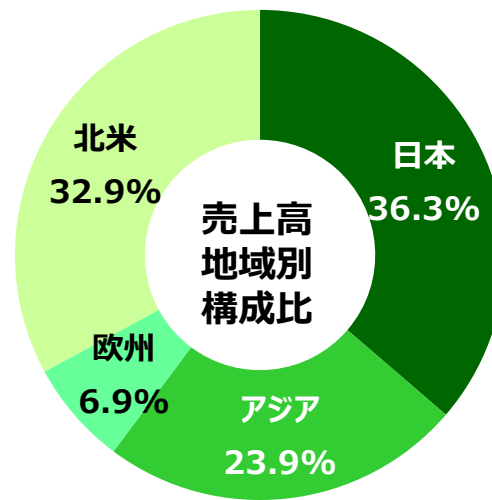
アプリケーション		26.3期 1Q		27.3期 1Q		対前年同期比 増減率
		売上高	構成比	売上高	構成比	
IND	産業機器	796	21.0%	876	20.2%	10.1%
CAR	車載機器	1,226	32.4%	1,279	29.5%	4.3%
MED	医療機器	110	2.9%	106	2.4%	▲3.6%
OTHER	その他機器	1,655	43.7%	2,071	47.9%	25.1%

※注：アプリケーションの分類は変更することがあります。
トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含みます。
お客様から用途を開示頂けない製品は、その他機器に含めております。

2027年3月期 第1四半期業績 ～地域別売上高（フェニテック）



26.3期 1Q実績



27.3期 1Q実績

※ 顧客の所在地別に区分しています。

(単位：百万円)

地域（顧客）	26.3期 1Q		27.3期 1Q		対前年同期比 増減率
	売上高	構成比	売上高	構成比	
日本	1,517	40.1%	1,575	36.3%	3.8%
アジア	875	23.1%	1,034	23.9%	18.2%
欧州	350	9.2%	297	6.9%	▲15.1%
北米	1,045	27.6%	1,426	32.9%	36.5%
平均為替レート（1\$=）	145.1円		160.5円		

※注：日本には、トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含む

2027年3月期 業績予想

為替が円安で推移したことに加え、受取配当金が当初の想定を上回る見込みとなったため、通期予想を上方修正

(単位：百万円)

	26.3期 通期実績	27.3期 業績予想 (当初)	対前期比 増減率	27.3期 業績予想 (8/12)	当初 予想比 増減率	備考
売上高	25,073	28,000	+ 11.7%	28,000	-	
営業利益	1,085	1,300	+ 19.8%	1,500	+ 15.4%	
営業利益率	4.3%	4.6%	+ 0.3pt	5.4%	+ 0.8pt	
経常利益	1,268	1,300	+ 2.5%	1,600	+ 23.1%	
親会社株主に 帰属する当期純利益	1,159	1,400	+ 20.7%	1,600	+ 14.3%	※TVSの譲渡益 6億円 程度を見込む
EPS (円)	109.38	132.17	-	151.05	-	
平均為替レート (1\$=)	¥150.9	¥155.0	-	¥155.0	-	
減価償却費	1,971	2,000	+ 1.5%	2,000	-	
設備投資	2,273	1,600	▲ 29.6%	1,600	-	

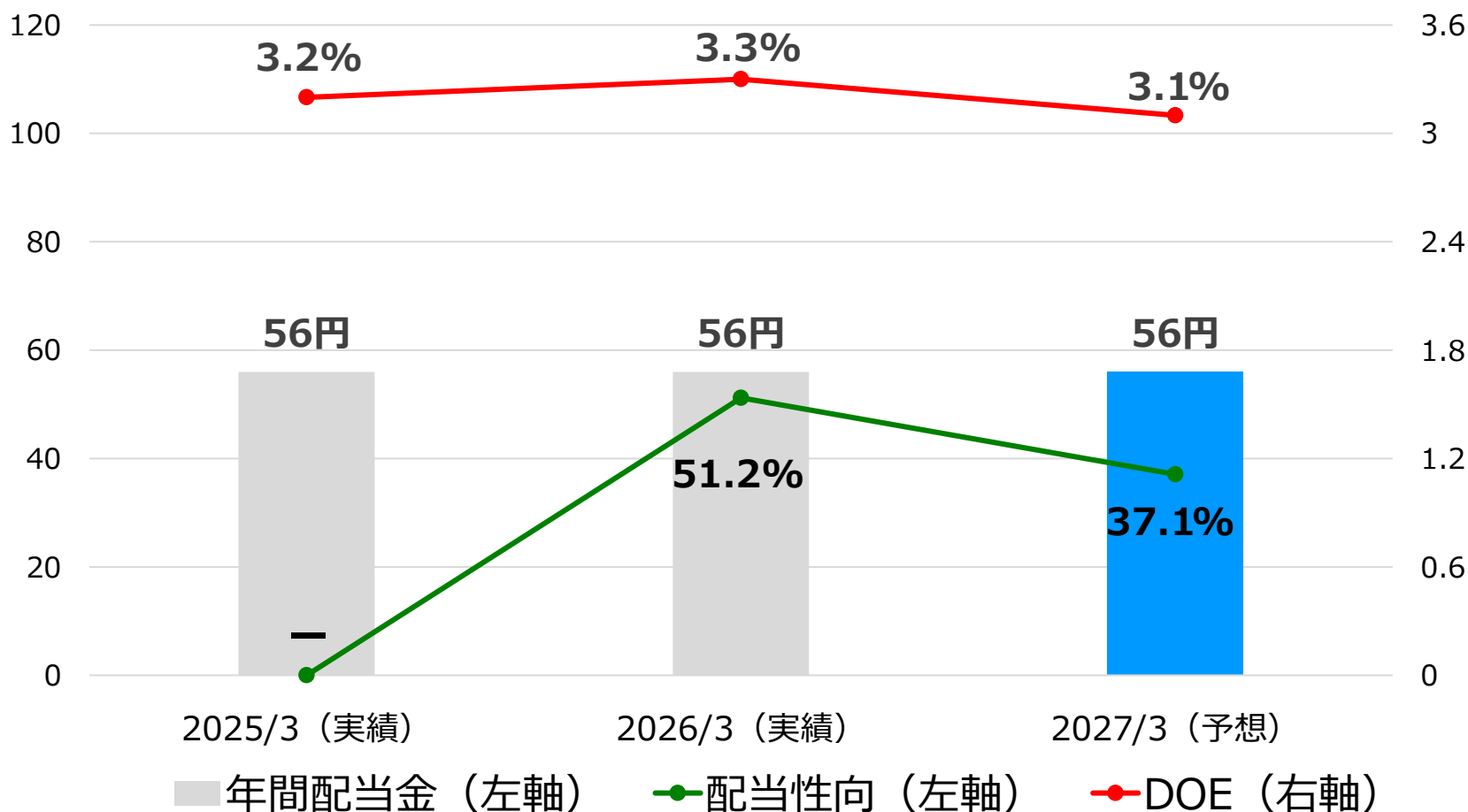
株主還元

配当につきましては、業績水準を反映した利益配分として
連結配当性向20%以上、安定的かつ継続的な株主還元
の拡充として**株主資本配当率（D O E）3%程度**を当面
の目標として実施しております。

連結配当性向20%以上、D O E 3%程度を目標として還元

配当金：円
配当性向：%

DOE：%



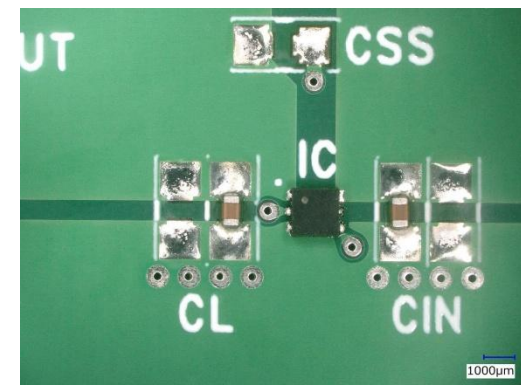
トピックス

トレックス・セミコンダクター

消費電流「ゼロ」を実現 多機能ロードスイッチIC XC8115/XC8116シリーズ

機器メーカー
からの要望

電池使用機器の増加と機器の高性能化により
電力消費の抑制が重要課題



XC8115/XC8116シリーズ基板

XC8115/XC8116シリーズ最大の特徴は、消費電力を大幅に削減し、動作時・スタンバイ時の消費電流 $0\mu\text{A}$ を実現。
小型電池を搭載した機器やエナジーハーベスト使用機器等、電力損失を抑えたい用途に最適な製品。

製品の特長

超低消費電流 $0.0\mu\text{A}$ で 電池持ちをサポート

✓ 従来製品から大幅な消費電流低減

動作時の消費電流 $0.0\mu\text{A}$ で電池持ちに貢献

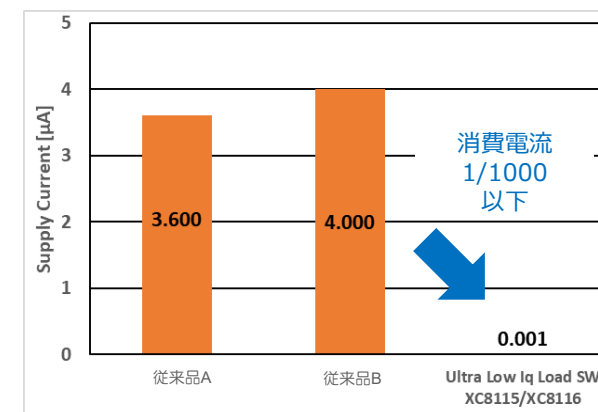
✓ 超低消費でも安心の保護機能

一般的な超低消費品と異なり、保護機能(短絡保護/過熱保護)を搭載

用途

- ・エナジーハーベスト機器
- ・医療機器
- ・IoT機器

など



GAIE 2026全球人工智能终端展 第七届深圳国际人工智能展览会 World AI Device Expo 2026 & 7th Shenzhen Global AI Expo

【2026年5月14日～16日 深セン会展センター開催】

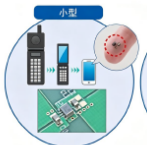
「グローバル人工知能端末展および第7回深セン国際人工知能展」に出展いたしました。

ロボット及びその周辺部品関連を目的に来場されたお客様へロボット関連製品向けである高耐圧チャージポンプ XM981Aシリーズ コイル一体型降圧DC/DC XCL247シリーズ等の製品をPRしました。



我们的专利技术有助于电子设备的小型化和节省功率

小型



节省功率



16Pin 70W
33VDC (1.2V)
HYC400-NA
11.5
7.4mm

XM981A

High Efficiency

Low Power Loss

Load Regulation

Ripple Voltage

TOIREX

机器人电源解决方案

深圳市芯科华高科技技术有限公司
联合参展
TOIREX代理/现货分销

计算与控制系统:
XM981A

运动执行系统:
XCL247

感知系统:
XC9291
XC6228

灵巧手:
XM981A
XCL247
XC9291



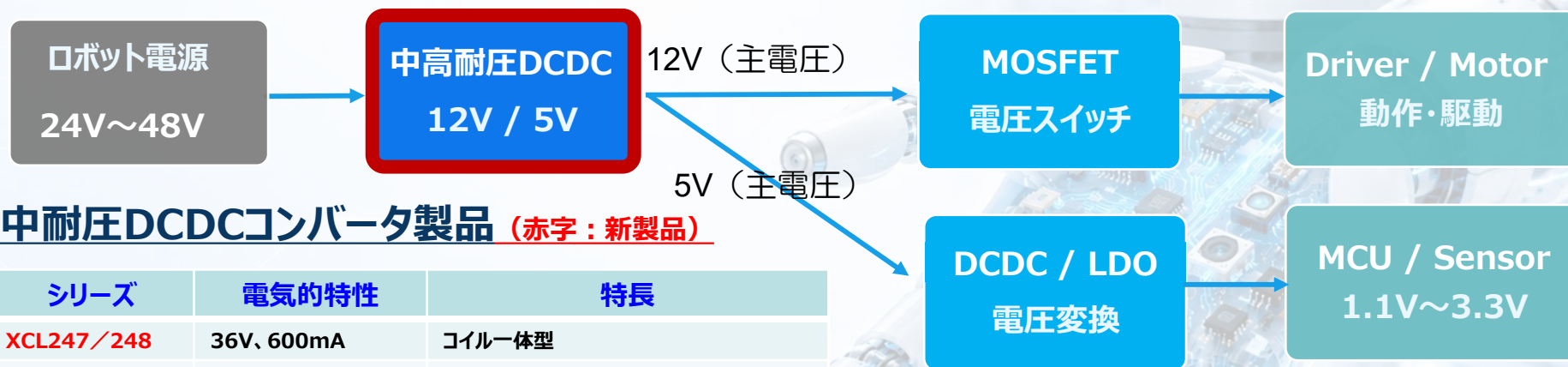
TRX製品が支えるロボット電源構成

半導体がロボット技術を支える

ロボットの駆動・センシング・制御を支える、中高耐圧DCDCコンバータを拡充中

- 産業用ロボット／ヒューマロイドロボットは24V～48V電源が主流
- 入力電源電圧には中高耐圧製品が必須
- 小型・省電力の電源ICでセンサー／MCU／モーターを高効率に駆動

ロボット動作に必要な基本電源構成例



中高耐圧DCDCコンバータ製品 (赤字：新製品)

シリーズ	電気的特性	特長
XCL247／248	36V、600mA	コイル一体型
XC9704／05	36V、600mA	
XC9714	36V、2000mA	実装エリア 10.8×8.8 (mm)
XC9702	60V、300mA	
XC9711	60V、1000mA	
XM981A	60V、6000mA	¼出力、1500mA/個 最大4並列可

半導体がロボット技術を支える

制御マイコン

電源IC： 高効率DCDCコンバータ

各種センサ用（カメラ、回転、温度、など）

電源IC： 超低消費電流LDO

通信用LSI（CAN、BT、WiFi など）

電源IC： 低ノイズ高効率DCDCコンバータ

電圧検出／リセットIC

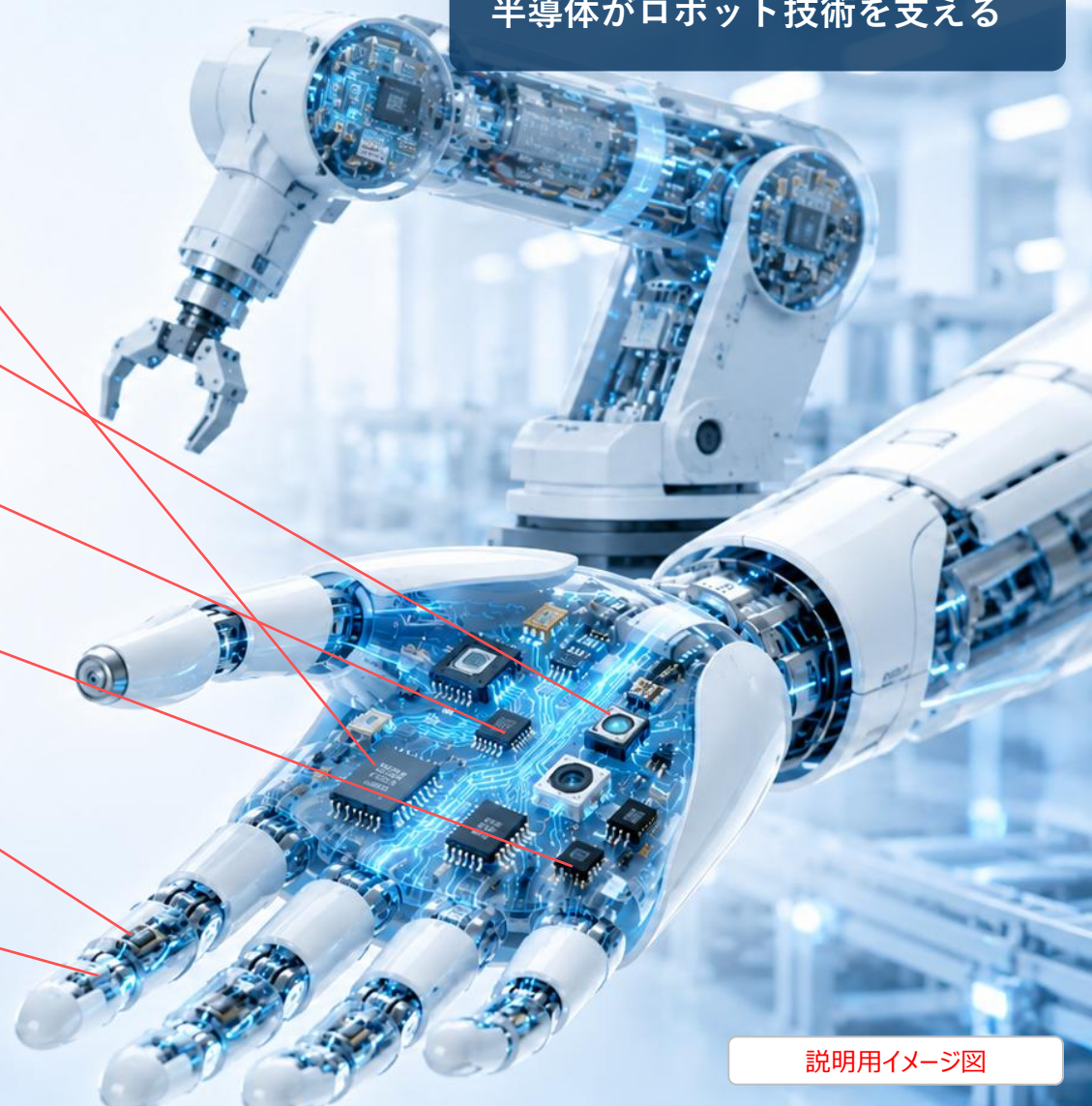
電圧監視、誤動作防止、マイコン暴走防止

モーター用ローカル電源（関節毎に必要）

電源IC： パワーMOSFET、ラインスイッチ

パワーMOSFET

電源供給のON/OFFや分離に数多く必要



説明用イメージ図

フェニテックセミコンダクター

ファウンドリ受託

SiC

GaN

GaAs

Ga₂O₃

主要化合物半導体(SiC・GaN・GaAs・Ga₂O₃) デバイスの
ファウンドリをフレキシブルに受託できるのが、当社の“強み”です

ファウンドリ

Ga₂O₃

経済安全保障重要技術育成プログラム 研究テーマ
「β-Ga₂O₃ウェハ、パワーデバイス及びパワーモジュールの開発」

✓ ノベルクリスタルテクノロジー社を中心とした取組み
「β-Ga₂O₃パワーデバイスの開発」に、プロセス開発を通して参画

開発中

・ MOSFET

他ファウンドリ案件

開発中

・ SBD

SiC 新製品開発

SBD

量産中

自社開発品 ✓ スピーディなシリーズ拡充で市場要求に対応

- ・量産中, 拡販サンプル提供中/顧客評価中
- ・低電流品を拡充中(1200V/2A ほか)
- ・目標耐圧2200V, 3300V品を開発中

MOS FET

プレーナー型

自社開発品 ✓ 電流ラインナップシリーズ展開 試作中

- ・サンプル提供中/顧客評価中 27.3期Q2量産予定
- ・高耐圧品開発に着手 目標耐圧2200V, 3300V品を開発中
- ・1200V品開発中

トレンチ型

バリキャップ

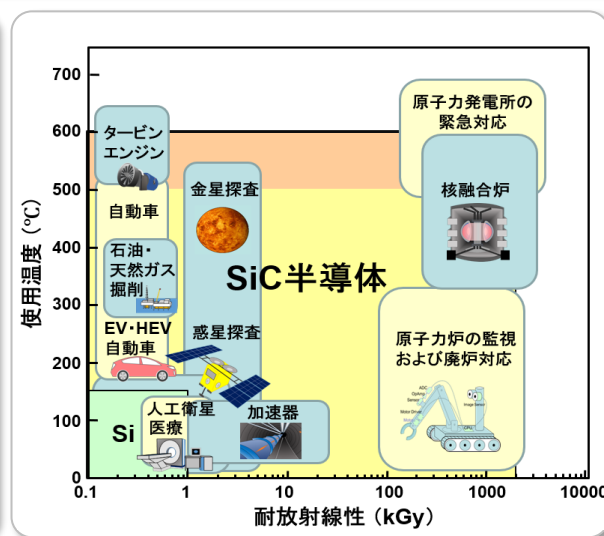
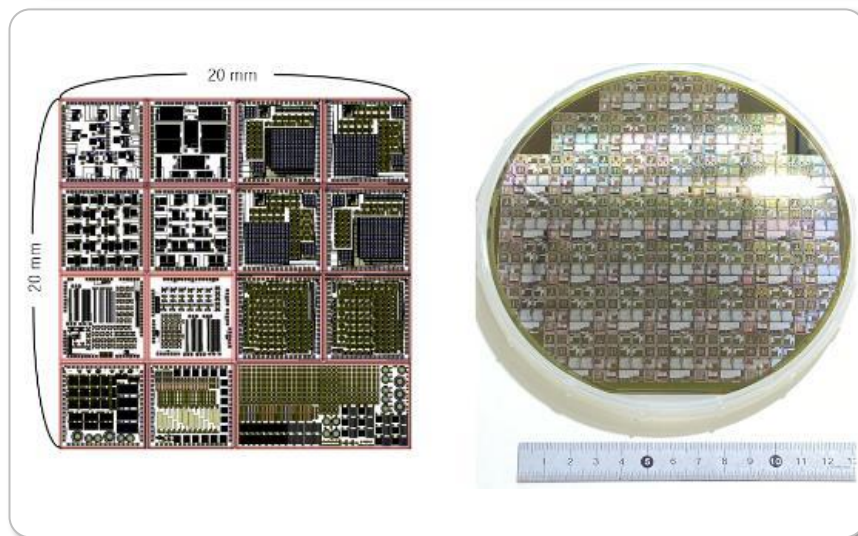
自社開発品

- ・28.3期 量産を目指し開発中

SiC-IC社会実装プロジェクト

プロジェクト目的

原発の廃炉対応や金星探査など高温／高放射線などの極限環境
応用に向けたSiC LSIのプラットフォームの立上げを目的とする
広島大学との共同研究



Next Steps

- ・ CMOS,PD 初回試作課題にアプローチした試作を出荷,評価を進める

Si製品開発

新たなパワーデバイス開発により更なる売上アップを目指す

SGT MOSFET

※SGT : Sprit Gate

60V

量産中

- ・27.3期Q1 量産化
- ・製品ラインナップ拡充を継続

30V

40V

100V

150V

HDT MOSFET

開発開始

※HDT : High Density Trench

◆新素子構造によりセルを高密度化、低オン抵抗化を実現

20V

30V

- ・28.3期Q2 サンプル出荷を目指す

SSGT MOSFET

開発開始

※SSGT : Super Sprit Gate

◆加工技術ブレークスルーにより、SGT MOSFETより更なる高密度化、超低オン抵抗化を実現

- ・29.3期Q3 サンプル出荷を目指す

ファウンドリ受託

岡山第1工場

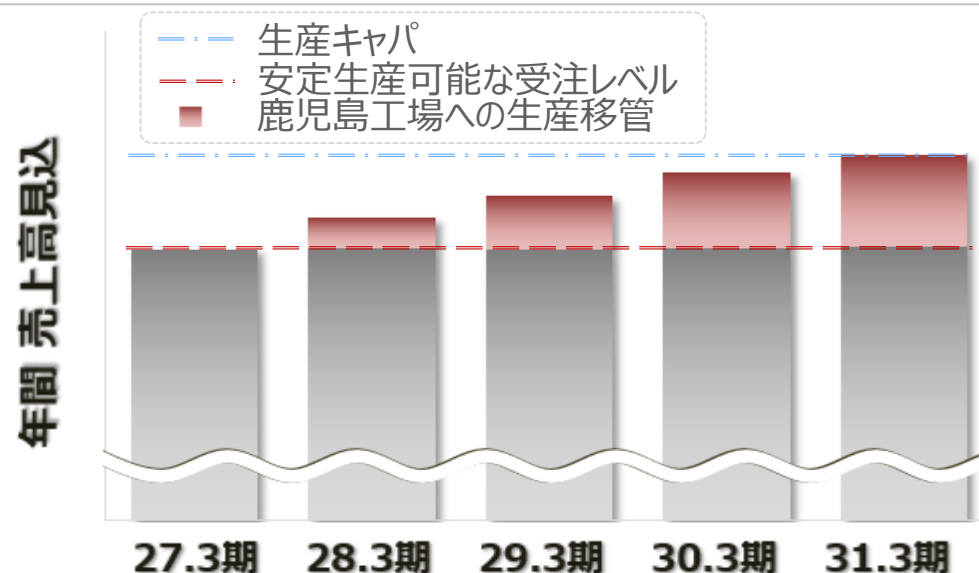
車載実績

半世紀の半導体
供給実績・信頼性

サプライチェーン
強靱化

- ✓ サプライチェーン強靱化の流れより、既存量製品の受注伸張見込み
- ✓ 鹿児島工場へ生産移管を進め、市況変動に対応可能な生産体制へ

年間売上高見込み



ファウンドリ受託

鹿児島工場

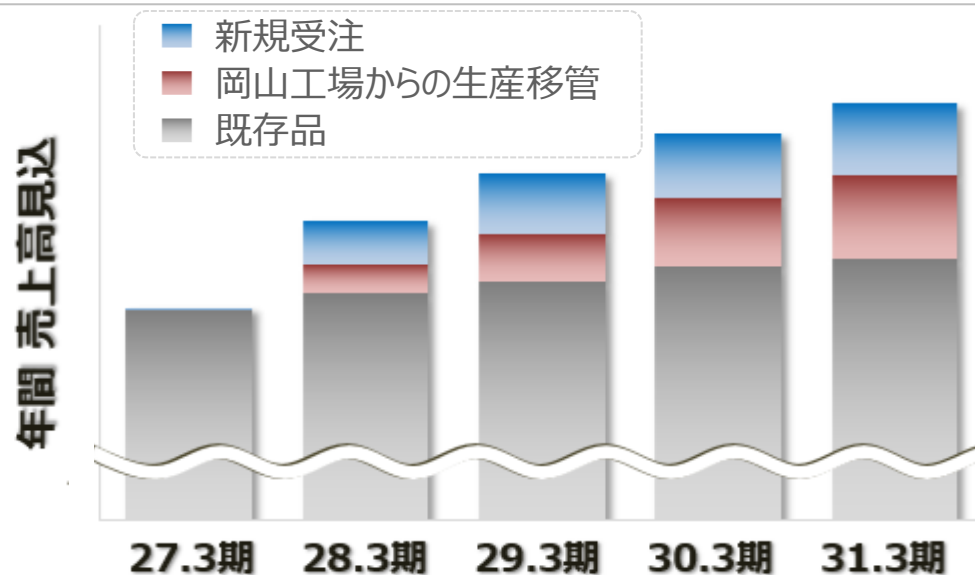
幅広い
品種受注体制

生産拠点の移管

新規受注

✓ 新規受注案件増加・岡山第1工場からの生産移管製品により、
売上高伸張の見込み

年間売上高見込み



当社は半導体生産開始 50周年を迎えます

当社の半導体生産の歴史はここから始まりました

1976年 岡山工場 小信号スイッチングダイオード生産開始

鹿児島工場(旧 日本楽器製造株式会社) 半導体生産開始

岡山工場(現 岡山第2工場)



生産開始 1976年3月～

鹿児島工場



生産開始 1976年11月～



お客様の多様なニーズに技術力と柔軟性で応え続けて・・・

小信号ディスクリート、パワー半導体、IC、光半導体、センサーなど様々な半導体製品をグローバルに供給し続けています

50年の歩みを支えてくださったステークホルダーの皆様へ

最大級の敬意と感謝を捧げると共に、培ってきた技術と信頼を礎に、新たな価値の創出に挑戦し続けます



植樹した記念樹「ソヨゴ」

京都営業部 事務所 移転のお知らせ

2026年6月8日(月) 弊社 京都営業部は拠点事務所を移転しました

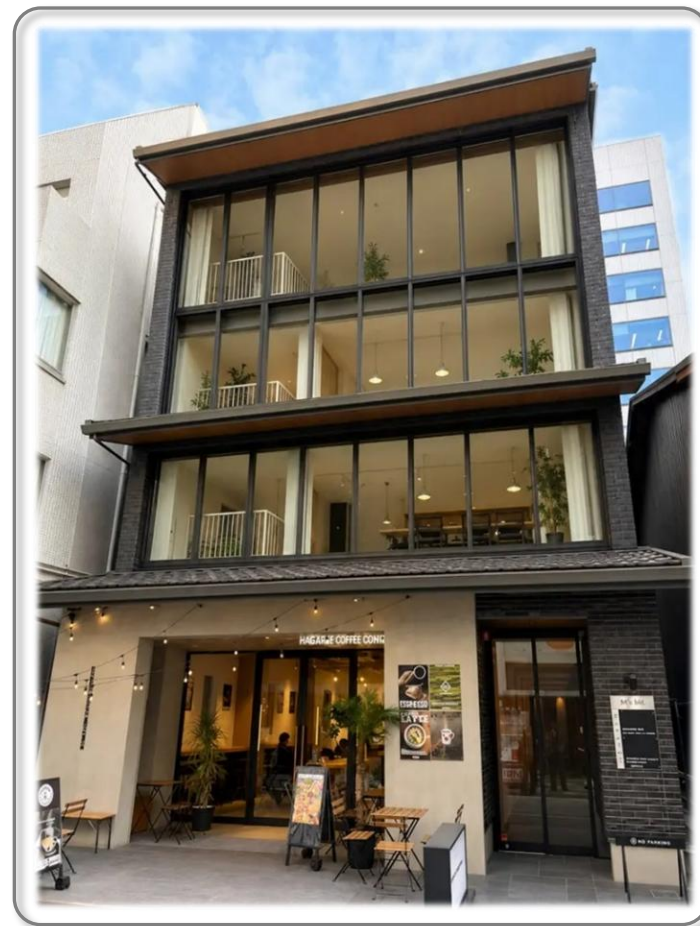
新しい空間でチームの連携をさらに深め、顧客の皆様方へ、より大きな価値をお届けできるよう邁進してまいります

新住所

〒604-8155
京都市中京区占出山町316番地
M'sビル4F
※電話番号・FAX番号の変更はございません

交通アクセス

阪急電鉄京都線/烏丸駅 徒歩4分
京都地下鉄烏丸線/四条駅 徒歩4分
京都地下鉄東西線/烏丸御池駅 徒歩9分



第41回 ネプコン ジャパン - エレクトロニクス開発・実装展 - 出展

開催日 2027年2月17日(水)～19日(金)

会場 東京ビックサイト 東7ホール

出展内容 Si/SiCパワーデバイス紹介及びファウンドリ紹介

次回 第41回 ネプコン ジャパン に出展いたします

今回の出展で、4回目の出展となり、出展を通じて新規ビジネス案件の獲得と当社の知名度向上を着実に積み重ねています



前回 第40回 ネプコン ジャパン当社ブース

次回出展においても、ご来場の皆様方に、Si/SiCパワーデバイス開発品とファウンドリサービスの魅力を広く発信してまいります

Powerfully Small!

常に豊かな知性と感性を磨き、
市場に適応した価値ある製品を創出し、
豊かな社会の実現と
地球環境の保全に貢献するとともに、
私たちの事業に携わるすべての人々が
共に繁栄すること



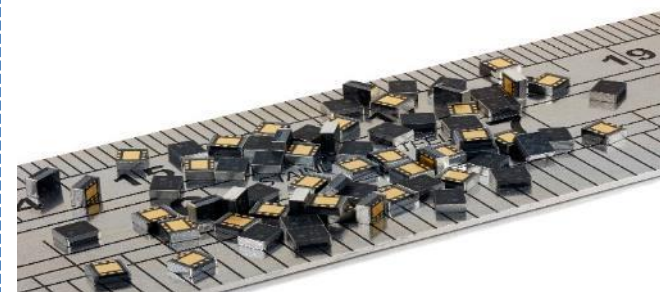
Appendix 会社紹介

1995年に設立。2014年にJASDAQスタンダード市場に上場、東証二部、一部を経て、2022年4月に東証プライム市場に移行した半導体メーカーです。

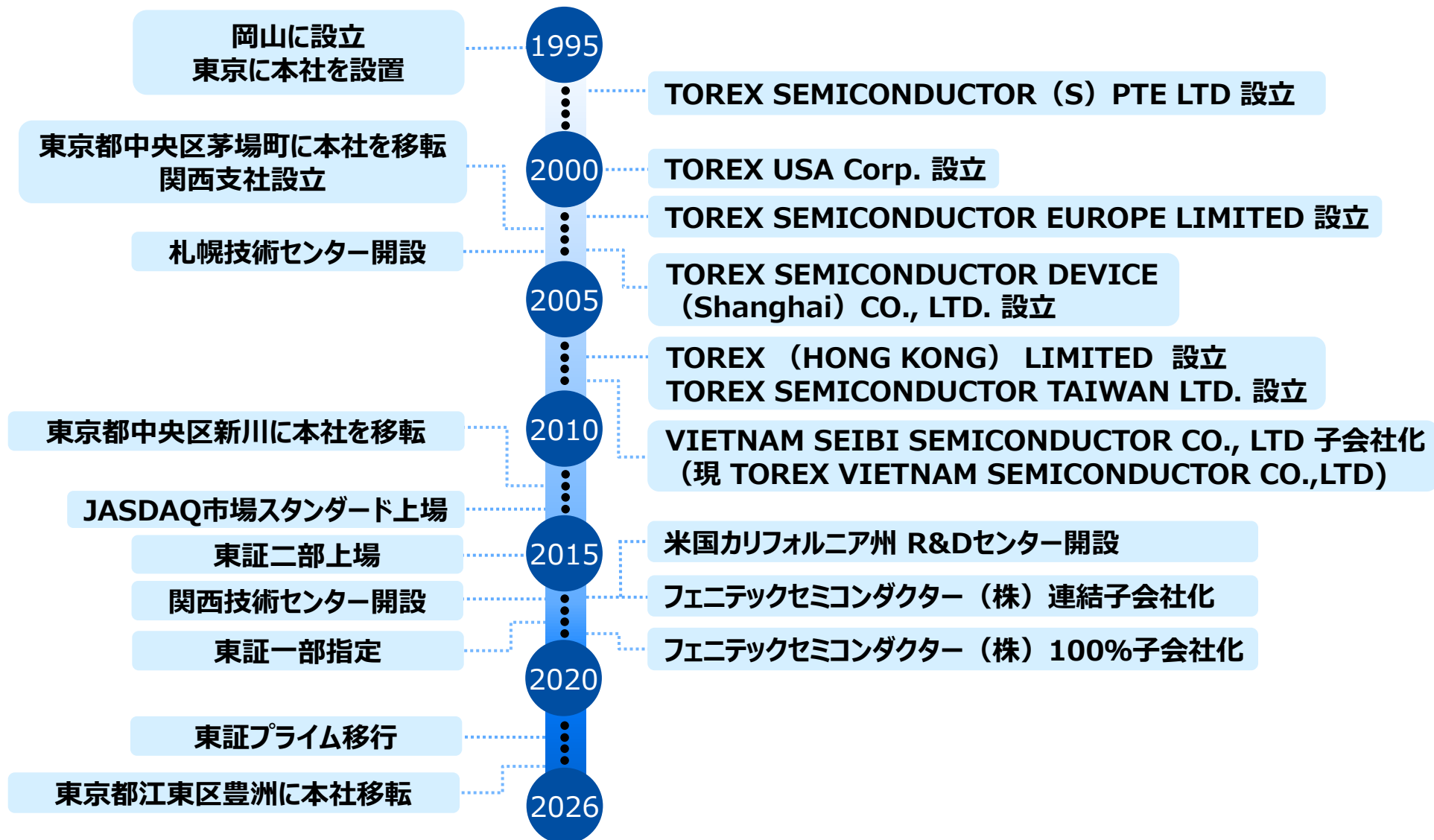
アナログのチカラ
ABOUT TOREX

所在地	東京都江東区豊洲6-4-34 メブクス豊洲 5階
代表者	代表取締役社長 木村 岳史
資本金	29億6793万円（2026年6月30日現在）
事業内容	1.半導体デバイスの開発、設計製造 2.半導体デバイスの販売
従業員数	当社：181名 / グループ：1,014名
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
単元株式数	100株
決算期	3月末日
証券コード	6616
URL	https://www.torex.co.jp/

常に豊かな知性と感性を磨き、市場に適応した価値ある製品を創出し、豊かな社会の実現と地球環境の保全に貢献するとともに、私たちの事業に携わるすべての人々が共に繁栄することを企業の理念とする。



電源IC一筋、**省電力・小型化**の技術でエレクトロニクス産業の発展に貢献してきました。



TOIREX



トレックス・ セミコンダクター

**ファブレスメーカー
アナログ電源IC専業**

強
み

- ・省電力／小型化の技術
- ・蓄積されたアナログ回路ノウハウ
- ・マーケティングと製品企画力
- ・フレキシブルな生産工場
- ・高品質をキープするQC
- ・ワールドワイドの製品販売網

Phenitec
For Further Growth Together



フェニテック セミコンダクター

**半導体受託専業(ファウンドリ)
ディスクリート、パワーデバイス、
CMOSアナログプロセス**

強
み

- ・高品質を支える生産ノウハウ
- ・長期安定供給のJapanFab
- ・車載 IATF16949取得工場
- ・専門性の高い製造対応力
- ・オリジナルデバイスの開発力
- ・パワーデバイスの開発力



トレックス・ セミコンダクター グループ

- ・顧客第一に徹した、小回りの利く対応力
- ・積極的なコラボレーションやM&Aによる協力関係の構築

**ファブレス&ファウンドリ
それぞれが本業を突き詰めたプロ集団となり、
相互補完でシナジーを発揮する。**

- 国内に東京本社を含む 7 拠点、海外に 8 つの拠点を設け、世界の需要に対応しています。



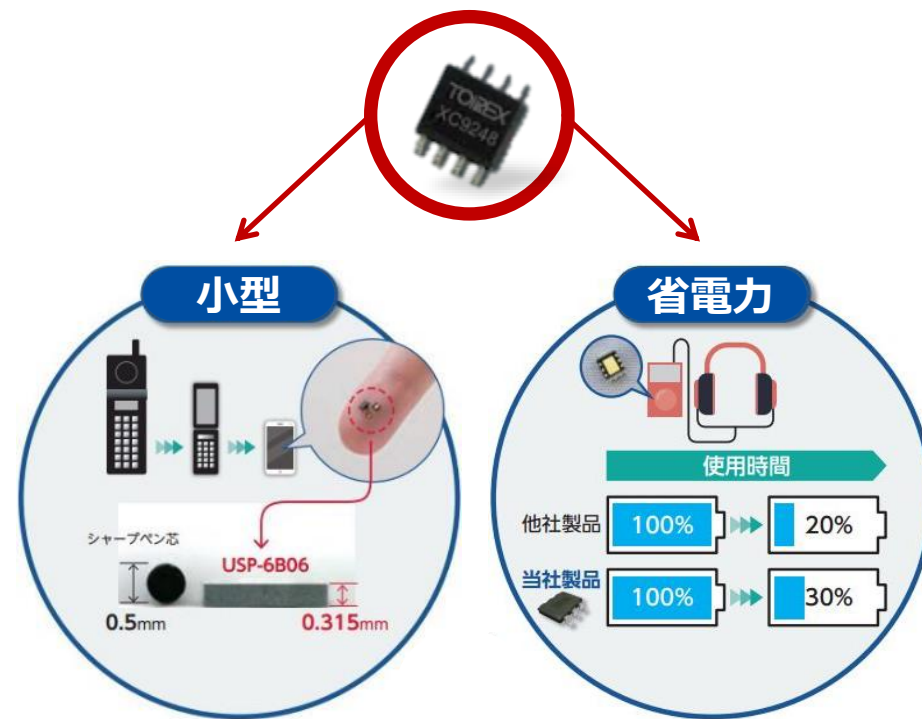
- 世界トップクラスの小型・省電力電源ICを開発・販売しています。

電源ICの役割



電子機器の様々な機能を動かすために
電圧を制御し安定供給する

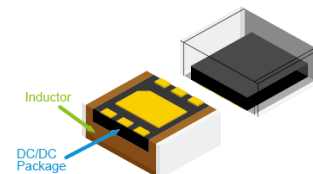
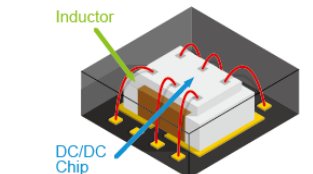
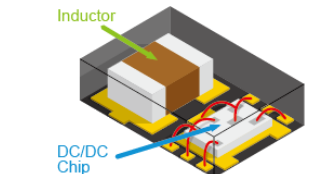
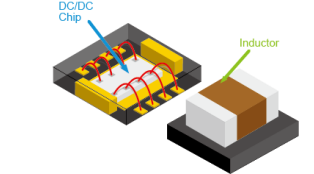
TOREXの電源IC



独自の技術で電子機器の
小型化、省電力化に貢献

● 豊富な構造で、適材適所に対応するTRXの “ micro DC/DC ”

- ・ DC/DCコンバータとコイルを一体化することで、基板の実装面積を削減
- ・ 低ノイズ、小型、高放熱に優れ、あらゆるシーンで高効率で安定した電源回路構成が可能
- ・ 中高耐圧／大電流化に向け、更なる進化を続けています。

構造名	ポケット タイプ	スタック タイプ	マルチプル タイプ	クールポスト タイプ
構造図				
構造説明	ICをコイルで覆ってしまう方法	コイル上にICをスタックする方法	コイルとICを横に並べる方法	モールドされたICにコイルをスタックする方法
特徴	◎ 放射ノイズ ◎ 近傍磁界 △ コスト ◎ 実装面積 ○ 大電流 ○ 放熱	○ 放射ノイズ △ 近傍磁界 ◎ コスト ○ 実装面積 △ 大電流 △ 放熱	○ 放射ノイズ ○ 近傍磁界 ○ コスト △ 実装面積 ◎ 大電流 ◎ 放熱	○ 放射ノイズ ○ 近傍磁界 △ コスト ○ 実装面積 ○ 大電流 ◎ 放熱
製品	XCL100/XCL101 (昇圧) XCL102/XCL103 (昇圧) XCL201/XCL202 (降圧) XCL205/XCL206 (降圧) XCL210 (降圧) XCL232 (降圧)	XCL208/XCL209 (降圧)	XCL211/XCL212 (降圧)	XCL104/105 (昇圧)

	トレックス・セミコンダクター	フェニテックセミコンダクター
事業形態	ファブレス	ファウンドリ
主な製品	省エネに貢献するキーデバイスを提供	
	電源IC	ディスクリート パワー半導体 (SiC、GaN、酸化ガリウム)
今後の 重点市場	産業機器 フィジカルAI、IoTモジュール 全固体電池モジュール 車載機器 自動運転、ADAS、車載カメラ 電子ミラー他、様々なECU	産業機器 産業用ロボット、鉄道、インバータ 発電施設（風力・太陽光）、パワーコンディショナー 車載機器 EV向けパワー半導体 電装品



フィジカルAI



IoT



自動運転



EV

本資料に記載された内容は、2026年8月12日現在において一般的に入手可能な情報と、合理的と判断する一定の前提に基づき、当社が作成したものです。

本資料に記載されている当社の中期計画、見通し等に関する記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。

実際の業績は、これらの要素により本資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

投資に関するご決定をされる際、本資料のみに全面的に依拠することはお控えいただき、みなさまご自身のご判断でなされるようお願い致します。